

- Q. Q2実績の計画比について、コロナとそれ以外の要因別にどうか。
- A. 計画に対し進捗遅れとなった。上期ではコロナによる影響は小さく、主な要因はCRO事業における売上と利益の減少によるもの。
CRO事業では、新薬の開発難易度の上昇や案件の小型化を背景に、受託済み案件の延期・中止が増加したこと等により売上高が減少、それに伴って稼働率が低下したことから、利益も減少した。
CDMO事業については、USの減少を国内でカバーすることが出来た。
- Q. コロナによる各事業への影響はどうか。
- A. 医療機関で臨床試験を実施できないため、CRO事業やSMO業務へのマイナス影響が最も大きい。CDMO事業でコロナに関連した新規受託でプラス影響もあるが、現状影響が軽微な事業においても、長期化に伴う影響や不測の事態が起こる可能性もあるため、注視していく。
- Q. 通期見通しは未定となっているが、下期赤字を予想している同業他社と同様になる可能性はあるか。
- A. コロナ収束の動向によって、特に臨床試験の実施に影響がでるため、同様の状況となる可能性はある。
- Q. CRO事業がコロナの影響から回復するのはいつか。
- A. コロナの収束時期によるため、現段階では見通すことは難しい。
- Q. ポストコロナで、CRO事業及びCSO事業に与える変化はあるか。
- A. CROでは、デジタル化が進行すると予想している。日本では遠隔診療を行うには障壁があったため、欧米では実施されているバーチャル治験の導入が難しかったが、これを機に進展が見込まれる。
CSOでは、ITを活用した効率的なMR活動が進むとともに、メディカル・サイエンス・リエゾン(MSL)のように専門的な情報提供も拡がることが見込まれる。